

十島村で学ぶ

【宝島ですごして考えたこと】
宝島学園 4年 川嶋 小春

「宝島ってどんな所なの。」
六さい年上の姉に聞いた言葉。私の姉は、今の私と同じ四年生の時に一年間だけ宝島に山海りゅう学をしていた。姉から宝島の話を知りだして、だんだん私も宝島に行きたくなってきた。そして、三年生の十二月、私は、宝島に行くことを決断した。私が宝島に行きたいと思った理由は、たくさんある。でも、一番は、星を見たいと思ったからだ。私の住んでいる東京は、周りが明るすぎてあまり星は見えない。でも、姉は、宝島の星はとてきれいだと言ってくれた。だったら、何でも知りたい私は、なおさら自分の目で見たいと強く思うようになった。

四月八日、新学期がスタートした。同級生は、私を入れて三人。そして、三年生が二人のクラスだ。私は、毎日、宝島に来て、やってみたかったことにどんどんちようせんした。仲間としゅう落内おにごっこをしたり、水泳大会では、海で五十メートルを泳いだりした。でも、まだ、宝島で一番見たかった星の観望はできていない。それでも、この一学期でたくさんの思い出ができた。

私は、山海りゅう学をして、宝島が大好きになった。みんな元気にあいさつをしてくれるし、自ぜんはきれい。港には、私を出迎えてくれたへき画もある。これから先、東京にもどったとしても、いつか宝島にもどって来たい。今では、そんな風に思っている。そして、これからも宝島でたくさんの「宝物」を見つけていきたい。

へき画せい作
諏訪之瀬島学園四年
吉田 昇

土ようじゅ業で
みんなで行きました
へき画をかくためです
とつても 重ようです
フェリーとしまのお客さんが
つくみなとだからです
たくさんの人が見てしまいます
だから しんげんにやりました
みなさん できあがり
楽しみにしててください



【小宝島学園からのメッセージ】
教諭 坂元 佑佳

小宝島に赴任して2年。児童・生徒をはじめ、先生方や地域の方に支えられながら楽しく充実した日々を過ごしています。職員室は話題に事欠けることなく、にぎやかな毎日です。赴任前は、お店のない生活に不安を感じずにはいられませんでした。しかし、今となっては材料が手に入らず、作りたい料理をすぐに作れないという不満があるくらいです。ここ小宝島の人口は少ないですが、その分地域と密に関わることが出来ます。釣りの最中、声をかけ、エサをつけ、釣った魚を針から外し、そして下処理までして下さる方やトビウオ漁に参戦させて下さり、トビウオの処理の仕方まで教えて下さる方、珍しい料理を教えてください下さる方、小寶島の習慣や伝統を教えてください下さる方、豊かな経験、知識、技能を持っていらっしゃる方々から生きた知識やその生き方を学ぶ貴重な経験をさせていただいています。

また多くの行事があり、毎年いろいろな思い出をつくることもできます。5月に行われた交流学習、昨年度の職場体験学習に引き続き引率者として参加しました。十島村の後期課程生や先生が一同に集まり研修することの大変さを知るとともに、同じ時間を共有することで十島村後期課程生・職員としての絆を深めることができたとも実感しました。その後の合同TV会議でも、自然と笑顔で互いに生徒たちが交流する姿をみてうれしく思いました。「としまはひとつ」交流学習での合い言葉を胸に、これからも様々な学びを深めていきます。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ
気軽に行き来することがなかなかできない十島ですが、互いに交流を深めて新たな発見や学びを深めていきたいです。Team 小宝をよろしくお願います!

十島村教育委員会だより 令和6年8月号

せわやがとカラ情報

南北160km
「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

【夏休みで静かだった島に活気が戻る時！新たな2学期を迎えるために！】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

7月19日の終業式のあと、20日の便で山海留学生はもちろん、地元の児童生徒も数多く上鹿していました。各島は、一気に子どもたちの笑い声や元気に駆け回る姿が無くなったように感じられたのではないのでしょうか。台風5号の影響で、先生方も同じ船で上鹿された方々も多く、まさに閑散とした学校になっていたのではないのでしょうか。また、台風通過後は毎日のように真夏日が続く、熱中症アラートが何度も発令されて心配されたところだと思います。これからも水分補給や休憩をこまめに取って、健康管理にも努めていただきたいと思っています。

さて、今年も先生方は給食調理員さん方の協力を得て、7月29日と30日の2日間、鹿児島市で実施しました「十島村教育研究大会」に出席することができました。この大会は、十島村の先生方が一堂に会し、様々な分科会に分かれて話し合ったり、国の施策の講話を聴いたりする研修会です。全員が直接会って情報交換する機会もこの時だけです。合計13人の外部講師にもお越しいただき、非常に意義ある研修会になりました。夏休みの間に、リフレッシュをした上で「研修と修養」に努めながら、また1歩力量を高めて、2学期からの授業に臨んでいきます。子どもたちと一緒に頑張る先生方も温かく見守っていただければ幸いです。

「対馬丸を思い起こして、恒久平和を願います！」
～戦争の悲惨さを将来に伝えていきましょう～

十島村が、沖縄や奄美大島・小笠原諸島と同じように、戦後アメリカの統治下に置かれ、占領されていたという歴史を知らない子どもたちがいます。山海留学生や義務教育学校の児童・生徒ですら、口之島にある北緯30度線のことをまったく知らない子もいます。ひょっとするとIターンでいらした方々の中にも知らない方もいるかもしれません。

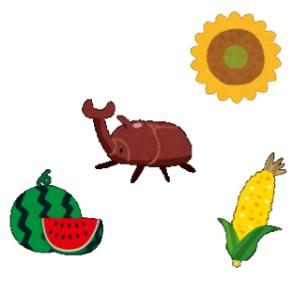
十島村が1952年(昭和27年)2月4日に日本復帰を果たし、同年2月10日に十島村が発足しました。2022年2月10日に、本土復帰70周年記念式典を役場で行いました。

悪石島沖で、アメリカの魚雷を受けて沈没した『対馬丸』のことが、ここ最近大きく報道されています。学童784人を含む1484人が亡くなっています。そればかりか中之島沖でも『武洲丸』という船が沈没しています。たくさんの犠牲者が中之島にも流れ着いたと聞いております。これらの辛い歴史ですが、後世に語り伝えていかなければならないことだと感じています。非常に辛く悲しい思いをされた方々が多いと思いますが、風化させないためにも、今の若い世代に伝えていただけないでしょうか。戦争の記憶を持っていらっしゃる方々が、どんどん少なくなっています。「語り部」として、平和な世の中を守っていくために、どう各学園の子どもたちにも、語り継いでいただけたら幸いです。

令和6年7月5日
南日本新聞
「子供のうた」

夏が
いっ
ぱい
小
宝
島
学
園
二
年
中
村
ひ
な
た

やすかせとえひ
ついぶみうだま
とかかともまわ
わわむくろめり
れりしっこそさ
た つしだい
よ みいかつた
ル つてじてよ
ン をっ プラ
ン ペミテ プラ
ン ペロ チン
ン ペミカ プラ
ン カリ
ン



**トカラウマ
産まれました**

県の天然記念物中之島のトカラウマの子馬が、2年ぶりに2頭(メス)誕生しました。
中之島で生息しているトカラウマは、全部で17頭になりました。

県立図書館の巡回図書が始まります。セブンアイランド移動図書と一緒に貸出しを行います。多くの本と出会いを楽しみにしててください。

海外派遣留学生報告会

本年度の十島村海外派遣ホームステイ事業で、オーストラリアに派遣された5人の留学生の帰国報告会が開催されました。海外の学校体験やホストファミリーとの生活や交流体験など様々な視点で学んだことを報告しました。

令和6年度 かごしま子供SNS相談・通報窓口

LINEを使っている人は左の二次元コードから「かごしま子供SNS相談・通報窓口」を友達登録してね。

LINEを使っていない人は右の二次元コードからWebチャットページにアクセスしてね。パソコンからも使えるよ。
<https://pref-kagoshima.coco-chaport.jp/>

電話窓口 電話でも相談できるよ
かごしま教育ホットライン24
0120-0-78310 (固定電話・携帯電話・スマートフォン)
0120-783-574 (固定電話専用)